

ICTで東北の治安維持に意欲

今回はものづくり女子として、2021年3月に秋田職業能力開発短期大学校（以下、秋田職能短大）専門課程電子情報技術科を卒業し、東北職業能力開発大学校（以下、東北能開大）応用課程生産電子情報システム技術科に

進学した岡本杏さん（大館市出身）を紹介します。岡本さんは、東北管区警察局（国家公務員試験合格）への内定が決まっております。2023年4月からは技術系職員として、警察活動の基幹となる独自のシステムの設計や開発のほか、サイバー犯罪捜査や電磁的記録の解析など各県警察の活動をICTで支える業務に携わる予定です。国家公務員試験受験では試験勉強や面接対策など最初から最後まで全力で頑張ったそうです。

公務員は6月から1次試験が始まるためクラスメイトが続々と内定していく中で試験を受け、クラスでは最後に内定が決まったそうです。能開大は就職が強いのが特徴の一つですが、自分だけが決まらなかったらどうしようと言った不安があったようです。

東北能開大での実習について話してもらいました。「応用課程では実践的な実習が多く経験できます。専門課程では基礎的なプログラミングや回路設計など基礎固めの学習をしましたが、応用課程では実践力となる電子機器の開発や、チームを組んで設計から開発までの一連の開発工程を体験できるなど実際の現場の空気感を体験することができ

ました。岡本さんによると、チームでの活動が中心となるため、自主的に行動することが重要になると強調していただきました。応用課程で指導している清水先生（生産電子情報システム技術科教授）からは「わからないところは、すぐに聞いてください」とアドバイスをいただきました。

岡本さんは、現在卒業研究にあたる開発課題実習に取り組んで、現場作業用の自動搬送車の開発に取り組んでいます。機械、電気、電子情報の3分野の学生からなるチームにおいて、岡本さんは、ロボットの制御の設定や遠隔操作用のアプリの開発を担当しております。

最後に、応用課程を目指している後輩や高校生へのアドバイスをもらいました。「応用課程では自主性が求められると感じます。学生が中心になって進める課題が増えるほか就職活動も行わなければいけません。社会に出るまでの残り数年で学生生活を楽しみながら資格取得など自分の力を高め頑張ってください。」

秋田職能短大 2021年3月卒

岡本 杏さん

東北職業能力開発短期大学校 応用課程
生産システム技術系 生産電子情報システム技術科



開発課題実習に取り組む岡本さん

「専門課程の卒業研究にあたる総合制作実習では『画像認識技術を用いた自動分別ゴミ箱の開発』を行いました。そして、研究成果の発表の場である東北ポリテクニクビジネスにおいて金賞を受賞することができたことが印象に残っています。もともとAIに興味があり取り組んだ課題でしたが、現在多くの分野で利用されているAIによる画像認識技術を学ぶことができたのは良い経験になりました。またそこで学んだPython（パイソン）などのプログラミング技術を現在の開発課題実習に生かしていると感じます。」

最後に、応用課程を目指している後輩や高校生へのアドバイスをもらいました。「応用課程では自主性が求められると感じます。学生が中心になって進める課題が増えるほか就職活動も行わなければいけません。社会に出るまでの残り数年で学生生活を楽しみながら資格取得など自分の力を高め頑張ってください。」

岡本さんは、東北能開大に進学し地元秋田を離れて不安なこともあったようですが、就職後働きながら慣れていかなければならない家事や心細さなど精神面での不安を、学生のうちから友人たちと共有しながら乗り越えられたのは良い経験になったと振り返っていました。来年4月から社会人としてのスタートを切る岡本さんには、秋田職能短大、東北能開大で学んだことをもとに、東北管区警察局で活躍されることを願っています。

秋田職業能力開発短期大学校 電子情報技術科教授 浅野英樹